
一夜夢の正論を

天地 とんぼ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一夜夢の正論を

【Nコード】

N4586B

【作者名】

天地 とんぼ

【あらすじ】

ボクは逃げている。迫り来る闇から

ボクは逃げていた。ボクは精一杯に両腕を振り、顔を左右に揺らしながら、必死に“生きよう”と懸命に走った。

後ろから迫るものは“闇”だ。真っ黒で、何も見えない闇が、ボクを飲み込もうと追い掛けてくる。逃げてても逃げてても、その闇との間隔は一定に保たれていて、立ち止まっても平気そうなのだが、飲み込まれる恐怖から、ただ頭は

「逃げる」

と繰り返す。

「もう駄目だ」

足と脇腹が悲鳴を上げ、ボクは目をつむった。

ボクは目を開けた。そこはいつもと何ら変わらない空間だった。ボクの部屋だ。ベットが軋みながらボクを支えていた。まだ薄暗く、時計はいつも起きる時間より3時間も前を指していた。

部屋を取り囲む空気は、どんよりとしていて、先程の夢を思い出させた。思いきり首を振り、忘れようとした。

しかし、一度思い返してしまったものは、自然と頭に浮かんでしまう。真っ黒な闇、迫り来る闇、逃げてても逃げてても追ってくる闇。

ボクは震える体を両手で抱き締めながら深く溜め息をついた。冷や汗がバジヤマの中をつたう。心臓がドクドクと耳に響き、周囲の静けさの中で、たった一人だけの生きている証の様だ。そう、まるで世界中に一人だけ。

ザワザワ…。突然、闇が動いた。そうだ、ボクは…。

！…この闇から逃げていたんだ。

それからまた、逃げだすのだ。そして、眠りにつき、起きると闇に追われる。その繰り返し。

薬に侵された体は、悲鳴をあげている。そして今日も鬼ごっこが

始まる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4586b/>

一夜夢の正論を

2011年1月27日04時58分発行